

## 高次脳機能障害普及啓発研修会の案内

日 時：平成21年3月21日（土） 13時30分～16時

会 場：リハビリテーションセンター4階 大研修室

内 容：講義「生活を支える高次脳機能リハビリテーション」

講 師：国立成育医療センター  
リハビリ科 医師 橋本 圭司 先生

対象者：リハビリテーション専門職のいる医療福祉施設、市町保健福祉担当課、  
地域包括支援センター、患者家族会、金沢市福祉健康センター、県保健福祉センター等

定 員：80名（先着順）

参加費：無料

参加を希望される方は、下記までご連絡ください。



## 石川県高次脳機能障害相談・支援センターの案内

〒920-0353 石川県金沢市赤土町ニ13-1  
石川県リハビリテーションセンター内  
(石川県済生会金沢病院となり)  
電 話 076-266-2188  
ファックス 076-266-2864  
ホームページ <http://www.pref.ishikawa.jp/koujinou/>

電話相談：月～金曜日 8時半～17時15分  
土曜日 8時半～12時半  
面接相談：月～金曜日 8時半～17時15分  
(予約制)

(相談担当) 北野 佃 嬉野



(発行)  
石川県金沢市赤土町ニ13-1  
石川県リハビリテーションセンター内  
石川県高次脳機能障害相談・支援センター  
電話 076-266-2188

# 石川県 高次脳機能障害相談・支援センターニュース

## 作業所設立に向けて 「高次脳機能障がい つばさの会」からの報告

県内には、高次脳機能障害のある方とご家族の会「つばさの会」があります。つばさの会は、H14年に何組かの家族が集まり、話し合いを重ねてきたことが始まりで、これまでに定例的な交流会や広報活動、生活訓練キャンプなど様々な活動をし、現在は作業所設立に向けて下記のように取り組んでおられます。

つばさの会は、昨年後半に大きく一歩前進することができました！！かねてより希望だった、NPO法人格の取得に向けて準備を重ね、支援センターの方々のご指導と、会員さんの努力によって無事申請を済ませることができました。

作業所についても、まだ狭い部屋ですが、金沢駅西口からすぐの場所に確保することができました。作業内容や、色々な問題を抱えての出発となりますが、会員のみならず力を合わせて頑張っていかなければと思っています。

住 所：金沢市広岡11番32号 サンアネックス110号室  
高次脳機能障がい つばさの会  
電 話：076-213-6613 中川まで  
開設日：月、火、木、金曜日の10時～15時（12時～13時半は休憩）  
水、土、日曜日、祝日はお休みです



☆ お近くにお越しの際には、お気軽にお立ち寄り下さい。お待ちしております。なお、部屋を留守にすることもありますので、電話で確認してからお越し下さい。

☆ 古紙・アルミ缶集めについては、価格暴落によりアルミ缶はしばらく止めることにしましたが、古紙の方は続けておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。ご協力いただける方は、ご連絡をいただければこちらから取りに伺います。これも作業所の作業内容にしたいと思っております。

これからも色々な方のご支援を受けながら、又一步一步、前進していけるように、みんなで頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

## 社会資源施設調査について

今年度は、自立支援法に基づくサービス事業所を対象に、高次脳機能障害に関する調査を実施しました。内容は、高次脳機能障害のある方の受け入れ状況や今後の受け入れ可否について等です。調査結果は下記の通りです。

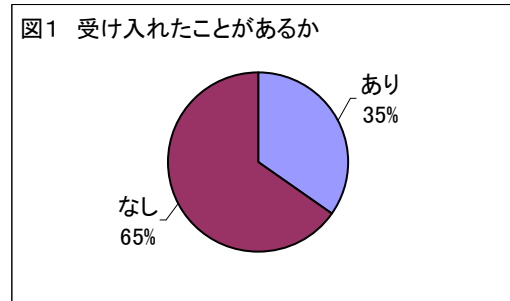
### < 結果 >

県内の自立支援法関連施設247ヶ所（1法人で同じ建物内でいくつものサービスを提供している場合、1ヶ所の施設）に送付し、132ヶ所から回答を得ました。（回収率 53.4%）

回答は、居宅介護、重度訪問、短期入所、知的通所授産、就労継続B型の施設からの割合が高い状況でした。

#### 【1】高次脳機能障害のある方を受け入れたことがあるか。 [図1]

ある 46施設      ない 86施設



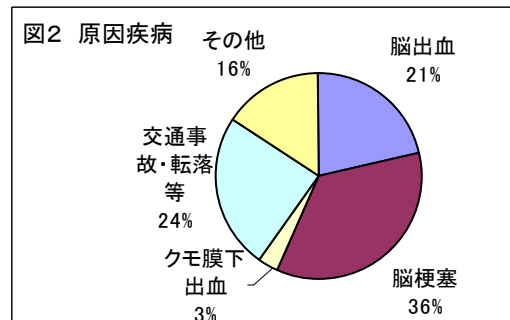
#### 【2】現在、施設を利用している高次脳機能障害のある方の状況

##### (1) 人数

94名（男性 62名 女性 31名 不明 1名）

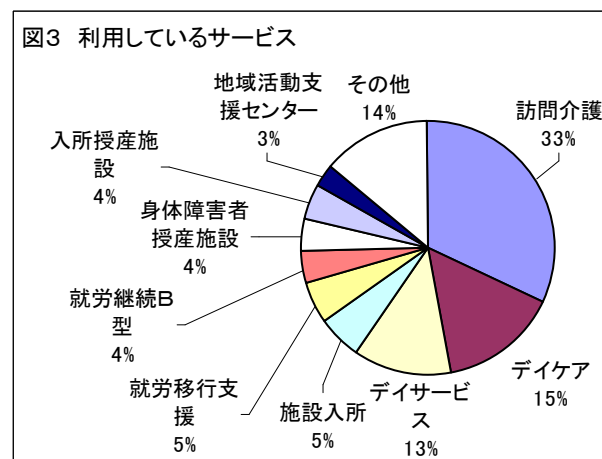
##### (2) 原因疾病 [図2]

脳梗塞が最も多く、次いで、交通事故・転落等、脳出血、クモ膜下出血、その他でした。



##### (3) 利用しているサービス [図3]

訪問介護が最も多く、次いで、デイケア、デイサービス、施設入所、就労移行支援、就労継続B型、身体障害者授産、入所授産、地域活動支援センター、その他でした。



#### 【3】今後の受け入れ可否について

積極的に受け入れたい・・・15ヶ所  
希望があれば検討したい・・・77ヶ所  
受け入れ不可・・・39ヶ所  
不明・・・1ヶ所

ご協力ありがとうございました。  
調査結果は、今後の支援体制整備の一環として活用していきたいと思っています。

## 今年度の重点事業

H19年4月の開設以来、相談件数は少しずつ増えてきています。中でも、最近では就労や就学に関する相談が多くなってきていました。また、ご家族からの相談だけでなく、医療関係者や施設関係者からの相談もよく受けるようになりました。必要に応じて、医療機関、障害者職業センター、学校関係者などと連携をとりながら支援を行っています。

今年度は、県内の医療機関、精神病院、企業をまわり、当センターの事業を紹介するとともに、医療現場や職場での状況などについて聞かせていただきました。

### 医療機関

昨年度に引き続き、当センター保健師が県内の総合病院25ヶ所をまわり、各ソーシャルワーカーに事業の紹介等を行いました。また、今年度はさらに当センター医師と作業療法士が各医療機関のリハ医、PT、OT、ST等を伺い、現場のリハビリ等で直接的に関わっている方々と、より具体的なお話をさせていただきました。

その中で、当センターの活動内容がまだまだ十分には理解されておらず、連携がとりにくかった現状があることも分かりましたが、今回リハビリテーション専門職の方々とお話させていただいたことで、リハビリテーション専門職からの具体的な相談も受けるようになり、地域における支援につながったケースもありました。

今後も連携をとりながら、継続した支援に努めていきたいと思っています。

### 精神病院

高次脳機能障害のある方は、脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科など様々な科を受診していますが、精神科を受診している方もいること、また、高次脳機能障害により障害年金を申請する際には、原則精神科医師の診断書が必要なので、精神科との連携も深めていきたいこと、などから、県内の精神病院12ヶ所の精神保健福祉士を伺いお話をさせていただきました。精神保健福祉士からは、退院後の生活支援が難しいという現状も聞かれました。

また、精神障害関連施設のグループホームに入所している方や、就労継続B型の施設を利用している方、また、日中の活動の場として地域活動支援センターを利用している方も多く、精神病院との連携も深めていく必要があることを再確認しました。

### 企業

高次脳機能障害のある方の就労に関する問題も多く聞かれることから、県内の企業10ヶ所の健康管理者（保健師等）をまわりました。脳血管疾患になった後、障害者枠で就職して働いている方もいれば、復帰できずに退職された方もおり、健康管理者のところに定期的に相談にきている方もいるようでした。本人の病状に合わせて配置を考える等、企業側も本人が働きやすいような工夫をしていること、また、社員にとって健康管理者の方が心強い存在であるということも伝わってきました。

高次脳機能障害の方と一緒に働いている周囲の方々の理解も大切で、周囲の方々が本人を十分に理解し付き合っていくことで、本人も継続して仕事を続けられているという現状が分かりました。必要に応じて、企業に出向き職場環境の調整や工夫などについて一緒に考えていきたいと考えています。